

ダルニー通信

081
2017
WINTER



特集

02-04

ファンドレイジング構想についての理事長秋尾の巻頭言と
3人の新理事の自己紹介

06-08

タイ・ベトナム・ミャンマーの奨学生の現状

05

ホームページ

09

ラオス少数民族

10

大学生の旅行記

12

カンボジア女子寮

1. どうすれば、少ないスタッフで多くの方々にダルニー奨学金のことを知ってもらえるのか？
2. どうしたら顧客満足度を向上し、一度参加した方々に喜んでもらえ、継続支援してもらえるのか？
3. どうすれば、海外事業所も含めて、事業運営費を削減できるのか？

この3点を念頭に、ファンドレイジング（寄付集め）が学べるアジア最大のファンドレイジング大会 FR2017 に参加しました。私は米国のファンドレイザー協会の方の基調講演に大きな示唆を受けました。多様で多くの人々が様々な団体に気軽に寄付する社会の構築に IT 産業で働く人が大活躍し、大きな成果（寄付の拡充）を上げていることに時代の流れを感じました。この大会では、日本の講師陣による ICT を駆使した募金活動の分科会もありました。そして、日本の IT 産業の中で、日本の寄付社会の実現に向けて取り組んでいる次世代の方がいることに強く感銘を受けた。一概に SNS といっても、以下、3分野があることも理解できました。

1. Web-Marketing 分野：多くの方々にダルニー奨学金を知ってもらいサポーターになってもらうためのネットによる市場開拓。
2. My-Page の分野：以下の2つの側面が一つで実現可能になる。

（側面1）一度サポーターになった方々が未永く支援して頂くための満足度を向上させ、信頼度を高める方法が必要であることを痛感。それには自分

の支援の「見える化」、すわなち、寄付したお金がどのように使われ、現在どうなっているのを瞬時に判る My-Page の構築が必要である。

（側面2）同時に各国での印刷費や国際郵便費等のコストの削減と品質向上（QC）の実現のために全てのデータのデジタル化の促進が可能な時代になり、My-Page の構築でそれが可能になる時代が到来した。

3, IT は日々進化し、変容する IT の世界に対応すべき体制の整備。

この3つの分野に長けた3人が力を合わせれば、相乗効果が生み出され成功が見込まれるのではないか。その成功の事例づくりを民際で実践したいと思いました。さらに、その事例をモデルケースとして日本の市民団体の発展に寄与できるのではないかと仮説を立てました。そして、20代、30代の ICT 社会起業家の方を訪問し、理事の就任を懇願しました。ファンドレイジング方法の大きな改革が日本の NGO の革命

となるかどうか…。 あたかも信長が率先して鉄砲を導入した如く、民際も率先して時代の最先端の技術を導入し、次の30年間の基礎づくりができたなら幸いです。

創立30年目の民際センターの革命

公益財団法人民際センター

理事長

秋尾 晃正

3人の新理事の紹介

2017年6月の理事会で外部から4人の方に新しく理事に就任していただきました。
今回はそのうち3人の方を紹介します。

■ 安藤昭太 (株式会社カルミナ代表取締役)

【経歴】 大学在学中にフィリピン国内の富裕層、貧困層それぞれの家庭にホームステイし、生まれた場所が違うだけで未来の可能性が大きく違うことに疑問を持ち、途上国支援の職を目指しました。しかし、関連職はことごとく不採用となり、手に職をつけるべくシステムエンジニア職で富士通株式会社に入社しました。

【現職】 いまは富士通を退職し、非営利組織専門のITシステム開発会社を経営しています。

【新しい時代の寄付活動について】

おいしいランチをするように、仲間と飲みに行くように、子や孫にプレゼントを買うように気軽な感覚で途上国の子どもたちに思いを馳せながら寄付をする社会にしたいです。

【理事を引き受けた理由】

ダルニー奨学金の仕組みをもっと多くの人に広めたい、インターネットを通してもっと多くの人に知ってもらいたいという秋尾理事長の思いに共感したからです。

【民際センターの理事として何がしたいか】

ダルニー奨学金をもっと多くの人に広めたいと考えています。特に若い人たちにこの仕組みを知ってもらうため、みなさまが奨学金を支援することで生まれた素晴らしいストーリーをより多くの方の目に触れるような仕組みづくりをして参ります。またみなさまにも、より奨学生を近くに感じることができるよう仕組みづくりもして参ります。

【まとめ】

何でもインターネットで手に入る今の時代だからこそ、ダルニー奨学金を多くの方に広め、インターネットでは得られない経験をしていただくために全力を尽くす所存です。今後ともよろしくお願いたします。



新しい理事・評議員

● 代表理事

秋尾晃正

● 評議員

阿刀田 高

作家・社団法人日本ペンクラブ15代会長

浦上節子

公益財団法人浦上食品・食文化振興財団理事長

衛藤真規

サイタコーデイネーション代表

小笠原耕司

弁護士・小笠原六川国際総合法律事務所代表

加藤隆久

建築家・加藤隆久都市建築事務所代表取締役

酒井順子

作家(エッセイスト)

平野健一郎

東京大学・早稲田大学名誉教授

山下大

情報印刷株式会社常務取締役

● 理事

阿部 紘士

ドイツランド株式会社代表取締役

安藤昭太

株式会社カルミナ代表取締役

大島仁志

キリンビール株式会社元常務執行役員

後藤 満

株式会社食生活代表取締役

谷田脩一郎

NPOマーケティングラボ編集長

ピーター・フックス

立教大学観光学部特任教授

● 監事

野呂昌彦

元財団法人国際文化交流協会専務理事

吉田宗一郎

吉田公認会計事務所所長



■ ■ 阿部 紘士 (ディグラント株式会社 代表取締役)

【現職】 マップコレクションアプリ Diground という、オリジナルの情報をまとめた地図を作成・共有ができるサービスを展開しております。また、PR 活動に強みをもち、複数企業の PR 活動のサポートをしております。

【新しい時代の寄付活動について】 寄付活動を日常生活の一部に組み込むことができれば、寄付市場はもっと活性化すると考え、学生時代に「OK (おつり寄付) 自販機」というアイデアを実現するべく奔走していた時期があります。近年では、

クラウドファンディングや、ふるさと納税など、資金の集め方も多様化してきました。今後も、多様な資金調達手段が創出され、寄付活動の在り方も変化していくと思案しています。

【理事を引き受けた理由】 30年の歴史をもつ民際センターが熱意をもって IT 化を推進しており、常に進化する組織の姿勢に将来性を感じたからです。

【民際センターの理事として何がしたいか】 民際センターの素晴らしい活動を、PR (Public Relations) していきます。また、長期ビジョンとして他団体のロールモデルとなる新しい寄付活動の仕組みを構築することを目標にしております。

【まとめ】 民際センターに関わるみなさまのご期待に添えるよう尽力させていただきます。



■ ■ 谷田 脩一郎 (NPOマーケティングラボ編集長)

【経歴】 教育系 NPO 法人を設立後、日本最大の社会貢献プラットフォームへ参画、老舗 NGO の理事等を経て、WEB マーケティング事業を展開する株式会社ジャックアンドビーンズのマネージャーとして、自社サービスのマーケティングとセールスを担当、自社メディア (NPO marketing labo) の編集長も兼任しております。

【新しい時代の寄付活動について】 インターネットの普及により、代表者と活動者のコミュニティ内や街頭募金等の”

Face to Face な寄付活動”に代わり、直接的な関わりがなくとも、ビジョン・ミッションに共感する一般市民からの” On-line 寄付”が主流になるのではないのでしょうか。また、ネット決済が簡易化したことで、数百円～数千円規模の少額寄付が増えると考えています。

【民際センターの理事を引き受けた理由】 代表者である秋尾さんの、“国(際)ではなく民(際)”という思想に共感したからです。日本は、社会課題に対して行政が強い救済力を発揮する仕掛けとなっており、他国では顕著な社会課題が目立ちにくい現状です。しかし、少数派でニッチでも課題は確かに存在します。行政のような平等にソリューション提供せざるを得ない母体では行き届かない救いを、“民”の手によって為すべきなのだと思います。

【民際センターの理事として何がしたいか】 NPO 業界をドライブさせるべく、自身の経験が最大限生かせるWEB領域から民際センターの活動に協力できればと考えています。社会に溢れる悩みやニーズに寄り添い、必要な情報を必要な人に届けることが現職である WEB マーケターの仕事です。それは“民(際)”そのものであって、理事として手伝えることが多くあると確信しています。

創立30周年のご寄付で2,995,000円が集まりました。



このご寄付でHPを リニューアルしました

公益財団法人国際センター 事務局長 南谷勝典

公益財団法人国際センターが今年設立30周年を迎え、2017年の初めより「民際力サポートプログラム」の一環として、国際センター運営強化を目的とした「創立30周年記念募金」のお願いをさせて頂きました。おかげ様を持ちまして、皆様のご協力により本年8月末日時点で、総額2,995,000円の寄付金が集まりました。ご寄付をいただいた方に改めまして厚くお礼を申し上げます。

本寄付金は、11月上旬に公開の国際センターのホームページのリニューアル及びご支援者の方々により一層のサービスを向上させるためのデータベース再構築に使用させて頂きました。ホームページのリニューアルは以下の3点を目的に実施しました。

- ① 国際センターの活動をより多くの方々にお知らせすること
 - ② できるだけ簡単なプロセスで寄付を可能にすること
 - ③ できるだけ多くの方々に、国際センターの理念である「民の力により、教育支援を通じて世界の貧困削減と平和構築を目指すこと」を知っていただき、さらにご支援していただくこと
- データベースの構築は、セキュリティの一層の強化を図るため、社内のイントラネットからクラウド上に移行し、さらに将来に向けて（本年12月公開予定）、支援者の方々をご自分で弊セン

ターのHPを操作しながら、支援状況や奨学生の情報などを確認できるマイページの仕組みを構築します。

この場をお借りして、日ごろのご支援に対しまして職員一同、ご支援者の方々に厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

2017年分の領収書発送は、2018年1月下旬を予定しています！

弊団体への寄付金は、確定申告により、寄付金控除を受けることができます。今年一年皆さまから支援していただいた寄付金の領収書発送は、2018年1月下旬を予定しておりますので源泉徴収等で所得税を納付されている場合には、お手続きをお忘れなく!! なお、それ以前に領収書発行を希望される方は、弊団体へその旨ご連絡 (email:info@minsai.org)をお願いします。

事務所移転のお知らせ

弊団体では、2017年12月～翌年2月の間に事務所移転を予定しております。2018年1月下旬予定の領収書発送時に新移転先をご連絡いたします。ご不便をお掛けしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

タイ、ベトナム、ミャンマーの奨学生の家族と今

「小学校を卒業して今年5月に中学校に入学します。それまでの休みの間、中学校で必要となる学費のためアルバイトをします」。これは2017年度中学奨学金に応募したタイの奨学生、シリカンヤ・バーンプラコンさんの自己紹介の手紙の一部です。

■ 祖母と2人暮らしのタイの奨学生チャー

シリカンヤ・バーンプラコンさん、ニックネームはチャー（以下、チャー）といますが、彼女は14歳で、ブリーラム県のバーンラムナンロン小中学校に通い、母方の祖母と2人で粗末な家に住んでいます。両親は3歳の時に離婚し、それぞれ再婚しました。

チャーの祖母（65歳）は日雇いの仕事のため収入が不安定です。以前はサトウキビの収穫、草刈り、ゴムの樹脂集め等の重労働をしていましたが、高齢のため今は屋根に葺く茅（かや）を織る仕事をしています。乾燥した茅と道具が家に持ち込まれ、祖母とチャーが指定の大きさに茅を織ると、1つ約21円で



家で茅を織るチャー

引き取られます。チャーさんも放課後と土日に祖母を手伝います。放課後は急いで帰宅して仕事をしますが、宿題や家事もあるので、1日で仕上がるのは1つか2つです。この仕事で祖母とチャーが得る収入は毎月1,500～2,100円で、この収入を学費や食費にあてています。

チャーの先生に彼女の学校での様子を聞きました。「両親が離婚後、小学校2年時にこの学校に転校してきました。祖母は小学校2年生までしか学校を出ておらず、勉強を見てあげることができません。チャーは読み書きが不得意で、授業で友達についていけない時がありますが、学校にいる時はいつも負けない様にガンバってます。留年したことを同級生がからかっても、チャーは怒ったことはありません」。中学入学に際して、先生から奨学生に選ばれたと知らされて、チャーも祖母も大喜び。支援者にお礼の気持ちを伝えるために、急いで感謝の手紙を書きました。



心から尊敬する支援者の方へ

私はシリカンヤ・バーンプラコン、15歳です。現在、ブリーラム県のバーンラムナンロン中学校の1年生です。2017年度から奨学金をいただくことになったことを先生を通じて知りました。私は感激して飛び上がって喜びました。私が中学で勉強を続けることができるようにという支援者からの優しい思いやりは、本当にありがたかったのです。

私の家庭は貧しいので、中学に就学することはできないと思っていました。両親は、私がまだ物心つかない頃に離婚し、それぞれに再婚して新しい家族がいます。ですから、わたしと祖母に仕送り

することはできませんでしたし、私の面倒は一切見てくれませんでした。学校に掛かる費用に家庭の支出も含めて、すべて祖母が工面しています。

私は、両親が離婚してからずっと祖母と二人で暮らして来ました。祖母はもう高齢で、収入は茅を編むことから得られるものと、政府から支給される1か月あたり600バーツの老人手当だけです。これらの収入は、毎月私と祖母が食べていくには足りませんが、学校の制服、教科書や教材などに掛かる費用は出せません。近所のうちに借金をするか、古くてもうちにある物で我慢するかしなければなりません。ですから、今回いただいた奨学金は、学費の負担をととても軽くしてくれました。私とこの奨学金を最も役立たせて、勉強を一生懸命ガンバります。本当にありがとうございました。

■ ベトナム奨学生のお母さん「息子には同じ思いはさせません」

※この手紙は奨学生のお母さんにインタビューし、その中学校の校長先生が書いたものです。

私の名前はカ・バットと言います。ヒエップンガヒア 地区 ジーンクアン町に住んでいます。私の息子は、中学校に通っています。私自身は貧しい家庭に生まれたので、学校へ行く機会はありませんでした。私は読み書きができないまま成長し、そして結婚しました。夫も読み書きができません。私の人生は、安定しない賃金の安い仕事にしかつげず、さらに辛いものになりました。また、読み書きができないため、会社の職員募集には応募できません。今の仕事は肉体労働です。その後も、読み書きができないために仕事を見つけるのは簡単ではなく、時には生活が追い詰められたこともあります。教育なしにはやりたいことは何もできず、仕事



インタビューに答えて下さったカ・バットさんと息子さん（奨学生）

も得られません。好きな道を進むことができないのです。息子が生まれたときに自分の人生を振り返り、さらに辛くなりました。そんな人生を送ってきたから私は、どんなにお金がかかっても自分の子ども達は、学校に行かせようと心に決めました。そして、2016年、私の息子は中学校に通うことになりました。学校の先生のご尽力で、息子は、日本のダルニー奨学金を受けることができたのです。私はとても感動し、支援者の方と民際センターのベトナム事務所、中学校の校長先生に本当に感謝しました。奨学金を受け取ったとき、他の親御さんがサインできているのに私は拇印を押さねばならなくて、とても恥ずかしい思いをしました。思わず、息子を抱きしめて「よく勉強して私とお父さんを喜



拇印を押さなければならなかった奨学金の受領書

ばせてね。私たちは他の人たちと比べていつもひげ目を感じていたのよ。あなたは、精一杯頑張って自分の人生を変えなさい」と言いたくなりました。日頃から、息子にはよく勉強するように言っています。最後に、支援者の方、それに民際センターのベトナム事務所と中学校の校長先生が息子と他の貧しい生徒を支援してくれたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

カ・バットより

■ 叔母さんと一緒に働いて家族を支えるミャンマーの中学生

ティンティンのお父さんは5年前にガンで亡くなりました。お母さんは栄養失調からか病気がちで、仕事はできません。ティンティンは4人きょうだいの3番目ですが、2人の兄は中学を中退して都市部に仕事に行くと言って家から出たきり、今まで全然連絡がありません。妹は中学1年生で、ティンティンと同じ学校に通っています。家は自分の家ですが(写真右下)、電気は来ていません。

現在、一緒に暮している独身のおばさん(お母さんの妹)が商店の店員として働いて、ティンティン一家の生活を支えています。給料は1日約670円です。長期の休日にはティンティンもそこで一緒に働いて、わずかな額をもらって、それを学費にしています。

ティンティンは学校へ行く前に家族全員の家事をすべて済ませてから学校へ行きます。学校が終わったら、友達の多くは塾に行きますが、ティンティンは近隣の家に行って手伝いをします。洗濯をしたり、掃除をしたりして100円に満たない額のお金を稼いでいます。土日も1日、そうした仕事をします。こうした厳しい生活をしてはいますが、それに耐えているのも、将来、先生になりたいからです。

来年は中学を卒業し、できれば高校に行きたいと思っています。はたして勉強と仕事が両立できるかどうか。「ティンティンには頑張って高校卒業まで勉強してもらいたい」というのがお母さんの希望です。



ティンティン。教室の前で(上)。
ティンティンの家(下)



2018年度タイ・ミャンマーの奨学金締め切りは2018年3月20日です。
ベトナムの新規分は同年3月、継続分は7月20日です。



**2018年のカレンダー
「メコンの陽だまりの中で」
を販売しています!**



2018年も皆さまにとって幸せな一年になってほしいという気持ちを込めて、メコン5か国の子どもたちの穏やかな瞬間をカレンダーの中に集めました。経済的に貧しいながら、毎日ささやかな出来事からも幸福を感じている子どもたちの素朴な表情は皆さまに幸せをお届けすることと思います。



【カレンダーのご注文】1部1,000円で日本以外にタイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー、ベトナムの祝日が分かります。ご注文はinfo@minsai.orgまたは03-6457-5782にご連絡ください。

ラオス少数民族教師養成プロジェクト奨学生からの手紙

今年、ラオス少数民族教師養成プロジェクト奨学生のうち6月に一年生を終了した学生は31名でした。一年修了後、奨学生のお礼のお手紙が記された報告書が支援者に届きます。今年、報告書を受け取った支援者様から、支援されているに奨学生に対するお話を頂きました。以下は、その奨学生からの手紙と支援者Y. S. 様のお話です（手紙はY. S. 様ではなく実名で書かれています）。

【奨学生からの手紙】

Y. S. 様

拝啓

日本のお母さんと呼ばせて頂いてよろしいでしょうか？日本でどのようにお過ごしですか？私と私の母は元気になっています。父は母と私が子供



教師養成短大で1年を終了したクウンエヴァー

の頃に離婚してそれ以来会ってはいません。なので、母が今日まで私を育ててくれました。

貴方様の御支援は、私の生活を良くし、母の支出を減らしました。私の家族はとても貧しいのです。貴方様の支援がなかったら私はより高度な教育を受けることはできなかったです。ですので、私にこのようなまたとない教育の機会を与えて頂いたことに本当に感謝しています。

貴方様の親切に報いるためにも私はここ教師養成短大での勉強に集中してさらなる知識を身に付けて故郷に帰って子どもたちを教えます。貴方様のご健勝をお祈りいたします。

敬具

クウンエヴァークウンサヴォン

【Y. S. 様からのお話】

この度、教師育成プロジェクトのお話を聞き、ラオス発展への素晴らしいサポートになると思い援助させていただきました。教育のレベルを上げるには教師の質が重要ですし、その教育を受けた後に就業できるという流れがあれば子供たちの夢が広がると思っておりました。最初にライカムさんという方のご支援をして、彼女から感謝あふれるメッセージをいただきこの支援で1人の女の子の人生を希望が持てるよう変えることができたことを実感しました。彼女が卒業した後、続けて他の方を支援することは決めていました。そして、今回ご縁のあった方がクウンエヴァーさんです。送られてきた写真を拝見するとまだまだ幼さの残る顔立ちです。笑顔の写真からお友達と楽しく勉強をしていることが伝わってきますが、学校卒業後はお母さんを楽しませてあげたいという気持ちも伝わってきます。私には一人しか娘はいませんが、彼女たちからのメッセージに「日本のお母さん」と呼ばれて娘が増えたようで本当に嬉しいです。その彼女たちの活躍でラオスがさらに発展することが楽しみです。

Y. S. 様とクウンエヴァーさん、血はつながっていないし、お互い遠い国に住んでいます。そのような何の縁もないようなお二方の互いを思いやる心に胸が熱くなりました。クウンエヴァーさん、これからも頑張ってお勉強して故郷に戻って素敵な先生になってくださいね。

支援しているラオスの奨学生に会った大学生の感想

授業で使った教科書を回収して新学期の初めに販売し、それをラオス奨学金にして支している学生団体Study For Twoのメンバー 8名が9月に支援している奨学生に会いにラオスに行きました。山田さんと東藤さんに感想を書いていただきました。

現実への抵抗

大阪大学三年 山田 樹

9月5日～ 8日まで、支援先であるラオスの中学校を訪問しました。今回、私がラオスに行った理由は、支援先で足りていないものを明らかにするためです。私は、探しものをするような気持ちで、学校に足を運びました。そこで見た景色は、私の想像を超えていました。明りがなく、隣と筒抜けになっている教室、



消してもきれいに消えない黒板など、日本の中学校と比較すると何もかも足りず、現実は厳しいと感じました。

しかし、ラオスの子どもたちは、私と同じ感覚を抱いていませんでした。

先生の問いかけに対して、大きな声で答える姿、数学の答えが正解だったときに、みんなで拍手する様子、笑顔が絶えない授業の風景などを見ていると、とても不満があるようには見えませんでした。さらに、支援している学生の家を6軒訪問し、「勉強関係で何か欲しいものはありますか」と学生に聞いたのですが、6軒とも「いいえ。ありません」との答えが返ってきました。さて、この答えを鵜呑みにして良いのでしょうか。私は、この答えをそのまま受け入れ、現地レベルで足りているから支援は十分だ、と安易に考えるべきではないと思います。現地目線は持った上で、さらに良くするにはどうすべきかを考えないと、支援のレベルは上がりません。より笑顔が多い授業、より子どもたちが満足して勉強できる環境を作るべく、ちょっとしたことでもいいから、ラオスで見た現実に抵抗し、変えていこうとする姿勢が重要なのではないのでしょうか。

自分の目で確かめること

大阪大学1年 東藤紗也加

私が今回、スタディーツアーに参加した理由は、自分たちの支援がちゃんと支援先に届いているのか、自分たちの支援方法は適切なのか、自分の目で確かめたかったからです。それから、自分たちの支援している子どもたちって一体どんな子たちなんだろうと興味があったからでした。

ラオスに入国して、学校に向かうまでの道のりは、子どもたちと会えることに対する、ワクワクドキドキで胸がいっぱいでした。学校について、花道で迎えられた時は本当に心が躍りました。

子どもたちは最初緊張して私たちを遠巻きに眺めているだけでしたが、次第に打ち解け、小学生の子たちとは鬼ごっこやサッカー、ゴム跳びをして遊び、中学生の子たちとは、じゃんけん列車を教えて遊んだり、スマートフォンを使って、一緒にたくさん写真を撮ったりして楽しみました。

奨学生の家も訪問して奨学生に直接質問をして、いろんな話を聞きました。奨学生やご家族の方の話から、自分たちの支援が過去から現在のものまでちゃんと届いていること、それが適切な支援であること、これからも持続的な支援が必要であることがわかりました。



今回のスタディーツアーを通して、ネットの情報からは知り得ない多くのことを知り、学ぶことができました。自分の目と耳で「確かめる」大切さを感じたとともに、それを他のメンバーに伝えることが重要であると感じています。学んだことを生かして、これからより多くの子どもたちを支援できるように貢献していきます。

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様の
お問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学金や図書セットを広める活動をしたい

- ①書き損じハガキの収集
- ②パンフレットまたはリーフレットの設置
- ③不要な本を集めてブックオフに送る
- ④募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料
などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので
是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともできます。送料は負担願います。

タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイの切手購入

- ①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と82円切手4枚を同封して送ってください。
- ②：タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。
82円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

国際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールでお問い合わせください。

奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

タイ・ラオスの奨学生にプレゼントしたい

82円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします。

毎年忘れずに送金したい

国際センターHPより、クレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。

編集後記

国際センターで働き始めたのが2001年。以来16年間、さまざまな支援者の方に出会いました。自分の楽しみにお金を使う代わりに、会ったこともない外国の子どもの教育支援に寄付するその心の在り方にいつも感動と感謝を感じていました。その中で記憶に残っている方を1人、再度で紹介します。ある日、突然、電話をかけたその女性は40代半ば、大病から回復したばかりでした。独身でお母さんと二人で暮らしてしまいましたが、最近、お母さんを亡くし、自分も大病をして「家族も子どももないし、このまま死んでもいいかな」と病院のベッドで生きる意欲をなくしていました。すると支援しているラオスの子どもが夢の中に現れて「おばちゃん、今、死んだらダメだよ。学校に通えなくなっちゃうよ!!」と訴えたそうです。それで彼女はもう一度生きようと思直しました。それが嬉しくて、国際センターにお礼の電話をかけたそうです。支援しているつもりが、同時にご自身の支えにもなったわけです。2001年以来、編集後記をずっと書いてきましたが、今回で筆者が交代します。長い間、拙文を読んでいただきありがとうございました。(富)



公益財団法人
国際センター

ダルニー通信 第81号 2017年12月1日発行 発行人：秋尾晃正
公益財団法人国際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL：03-6457-5782 FAX：03-6457-5783
Eメール：info@minsai.org ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：00160-7-664928



プレア・バッド・ノロドム高校に遠距離通学する女子生徒たち(彼女達が寮に入る予定です)



プレア・バッド・ノロドム高校の校舎



高1で学校を中退するカンボジアの高校生たち

今年、カンボジアの高校女子寮の建設にいくつかのお問い合わせがあり、女子寮を建設する候補地の高校の情報をカンボジア事務局から送っていただきました。以下が3つの高校(中学高校の一貫校)の学年別生徒数です。

- ① プレイベン県のプレア・バッド・ノロドム中学高等学校(数字は男子・女子)

中 1		中 2		中 3		高 1		高 2		高 3	
114	121	93	110	70	83	185	171	133	136	115	119
235		203		153		356		269		234	

- ② スベイリエン県のフンセン・カンボン・ロウ中学高等学校

中 1		中 2		中 3		高 1		高 2		高 3	
139	114	101	106	100	78	215	171	153	120	153	93
253		207		178		386		273		246	

- ③ プレイベン県のプレイ・ポン中学高等学校

中 1		中 2		中 3		高 1		高 2		高 3	
84	96	60	66	64	47	143	135	86	104	77	80
180		126		111		278		190		157	

3校に共通するのは、高2に進級できない生徒の多さです。高1と高2の生徒数を比較すると、①90名(25.3%)、②113名(29.3%)、③83名(29.8%)といずれも高い割合になっています。無理を承知で思い切って高校に就学したものの、学費や通学までの距離(時間)が大きな負担となり、最初の学年で退学したい生徒が多いことを示しています(中学校も同じことが言えるかもしれません)。日本とカンボジアの小中高数の割合は日本が4:2:1に対してカンボジアは16:4:1で、16の小学校に対して1つの高校しかないため、高校に通学する距離がどうしても長くなります。また公共交通機関がなく、道路の状態もひどいので、多くの生徒が長距離通学ゆえ高校に通うことを断念せざるを得なくなります。男子の場合、学校にお寺があれば、そこから通う可能性はありますが、女子はお寺に住むことはできません。こうした事情ゆえ、カンボジアの高校に女子寮が必要とされています。



遠距離通学するプレイポン高校の女子生徒たち